



昭和30年、御成町1丁目大火

大火と復興の歴史

大館市は、市制施行以来これまでに、焼失棟数が百を超える大火を四度経験しています。もちろんこれは決して良いことではありません。むしろ不名誉なことですが、私たちにとって忘れてはならない歴史といえるでしょう。

乗り越えて今

これから冬に向けて、火気を取り扱うことが多くなりますが、もう一度過去の大火を振り返り、火の用心を心にとり刻み込みたいものです。御成町二丁目の大火があったのは、今からちょうど二十年前の十月のこと。

大火の要因は

大火となった主な理由をみると、地理や気象条件などのほかにいくつかの共通した要因が浮かび上がってきます。

まず、大館は盆地であることから、春先にはしばしばフェーン現象が発生し、異常に高温で乾燥した南風が吹き込みます。大火のすべてがこのフェーン現象の影響によるものとは言えないでしょうが、大火誘発の一

因となったのは明らかです。注目したいのは、大火が四月、五月に集中していることです。

第二には、家屋をはじめ建築物に木造が多かったこと、さらにそれらが密集していたことです。木造マサあるいは杉皮ぶき屋根などへの飛び火により、一時にあらちちらで発火点が現れ、火面が拡大するという事態が発生しました。木材のまち大館であり、木々端やおがくずなどの可燃物が非常に多かったこともあったのでしょう。

三つめには、通報の遅れや発

大館

昭和の大火

昭和7年5月21日

南新道（現田代町）から出火、同町六十戸焼失。死者二名、損害額約十八万円。

昭和9年9月5日

午前一時三十分頃弁天町から出火、新富町、新開地百二十戸焼失。風向東、損害額約四十万円。

昭和15年5月25日

閑居町（現愛宕町）から出火、同町四十五戸全焼。風向東、損害額約十二万円。

昭和23年6月2日

清水町から出火、六十九戸焼失。風向東、損害額約四百六十九万円。

昭和28年4月29日

午前四時、馬喰町から出火、官公庁街に延焼し、公立大館病院、郵便局、電報電話局等百三十七棟焼失、午前六時鎮火、風向南南西、損害額約七億三千万円。

昭和30年5月3日

午後一時半ごろ御成町一丁目から出火、国鉄大館駅をはじめ、小坂線大館駅、旅館、映画館等五百八棟焼失、午後三時鎮火、風向北東、損害額約七億一千万円。